

H20 年度予算/国・県補助△56%&投資経費△44%

国、県からの予算獲得に！米子の市長さん、顔がみえていません！

平成二〇年度の一般会計予算は、前年比〇、七%減のマイナス予算。歳入の内、市税〇、五%・地方交付税四、三%の伸び。歳出は、人件費、扶助費、公債費が全体の五〇、八%と高く、投資的経費は、前年比四四、一%の減。国、県の補助事業も五六、一%と大幅削減。

予算獲得

予算編成ゼロ

予算の削減は、市民生活の土台を切り崩す。今年の予算は、「生活充実都市・米子」のイメージとは程遠い。

市に、自前の財源が無いなら国、県に出向いて、少しでも収入を増やす努力が常道である。野坂市長の出張記録に、その足跡は無い。

出張旅費

大幅削減！

国・県に出向いて、独自のまちづくりの相談、協議という不断の行動が、市政全体に見当たらない。

国・県との政策協議は、単年度の事業効果だけでなく、次年度以降の市政運営の「資源」となる。

今年の部長旅費は、全体で二〇万円。一人当り、年間二万円。打倒できない閉塞感。

投資的経費 16.4 億円マイナス

(補助事業 13.7 億円マイナス)

地域経済に波及効果の高い投資的経費は、近年では最低の 20.9 億円。

その内、国、県の補助事業は、前年に比べて大幅に削減 10.7 億円。

公債費(借金)返済、ピークH23年！

市の借金返済額は、H28 年以降から大幅に減る。それ以降は、市の財政規模に見合った返済額(64 億円以下)にもどる。

公債費の元利償還額のピークは、H23 年の 83 億円台が徐々に減り、H28 年の多額な債務返済以降は、50 億円台に減少。

外部監査導入と

国の管理！避けたい

「一般会計はともかく、連結決算の数値が気がかり。」、予算編成の裏方に緊張感。

今年から、全会計の連結決算の数値分析で、外部監査か、国の管理かという危険水域に怯える団体も少なくない。危険水域に入れば、財政運営に制約がかかる。

美保基地協定と

民生安定事業

市は、防衛省と「美保基地協定」を締結している。

この協定には、防衛省の民生安定事業と防音工事という補助事業がある。

弓ヶ浜地区の下水道整備、学校・保育施設等の移転、改築の財源確保に、この補助事業を積極的に活用すべきだ。市長は、この補助事業の情報に温度差がある。



退職金 市長、任期 4 年間で 1,500 万円&議員、退職金の制度無し 0 円！

年金 市長・12 年在籍で月額 13 万円&議員・30 年在籍で月額 14 万円(税込み)

知りたい情報！

政治と金の不祥事は、議会制度や社会の民主主義の根幹を揺るがしている。議員報酬批判の、「自分は、当事者にならないが、議員報酬は高い。報酬は削減し財政再建だ。」という、議員バッシングもその類である。議員報酬の「日当制」も、選挙と議会制度の本質を置き去りにした世論だ。議員は、「市民の公僕」と批判しつつも、議員は、ハードルの高い選挙という市民の審判を受けて成り立つ。「腰掛、片手間議員」を多くつくるのか、「専門議員」の議会を選ぶかは、議会制度を含めて、全てが市民の掌中に託されている。

- ☆ 市議の年金は、議員個人が月額報酬 44 万円から、毎月 7 万 4000 円を掛けて 12 年以上積み立て、議員を辞めてから受給できる。(旧 55 歳、新 60 歳以降、など)
- ☆ 市議会議員の退職金は、制度としてありません。

☆ 遠藤とおるのホームページを開設しました。「遠藤とおる」で検索できます

☆ 「市民と議会」は、テレビ・新聞では語れない市政のニュースを届けます！